

2017年度

アクションプラン

公益社団法人 栃木県サッカー協会

目 次

公益社団法人栃木県サッカー協会の理念	・ ・	P	1
公益社団法人栃木県サッカー協会のビジョン	・ ・	P	1
公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み	・ ・	P	2
2017年度のTFA活動目標	・ ・	P	3
1. 第1種委員会・社会人連盟	・ ・ ・	P	4
2. 第2種委員会・高校連盟	・ ・ ・	P	4
3. 第3種委員会・中学連盟	・ ・ ・	P	5
4. 第4種委員会・少年連盟	・ ・ ・	P	5
5. 女子委員会・女子連盟	・ ・ ・	P	8
6. クラブユース連盟	・ ・ ・	P	8
7. シニア委員会・シニア連盟	・ ・ ・	P	9
8. 技術強化委員会	・ ・ ・	P	9
9. フットサル委員会・フットサル連盟	・ ・ ・	P	10
10. 審判委員会	・ ・ ・	P	10
11. キッズ委員会	・ ・ ・	P	14

公益社団法人栃木県サッカー協会の理念

公益財団法人日本サッカー協会の理念に基づき、栃木県においてサッカーの普及発展、競技力の向上に努め、サッカーを通じて栃木県民の豊かなスポーツ文化の振興及び心身の健全な発達に寄与する。

公益社団法人栃木県サッカー協会のビジョン

1. 栃木県のサッカーの普及に努め、スポーツに親しむ環境を構築し、県民に健康と幸せを与える。
2. 競技力の向上を図り、栃木県代表チーム・選手が日本及び世界で活躍することにより県民に夢と希望を与える。
3. フェアプレーの精神を広め、人々の友好を深め、安全で豊かな社会を構築することに貢献する。

公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み(TFAミッションファイル)

《10年後の達成目標(TFAゴールプラン2022)》

目標項目	達成目標	活動内容	現状数値
サッカーファミリーの拡大	サッカーを愛する仲間(サッカーファミリー)のうち、 <u>プレーヤー・審判員・指導者が4万人(県民の2%)</u> になる。	1. 第1種登録チームの選手登録数の拡大 2. U13~18年代の選手登録数の拡大 3. 女子の選手登録数の拡大 4. フットサル選手登録数の拡大	2016年度 サッカー選手登録 17,236人 フットサル登録 456人 審判員 5,040人 指導者 2,271人 計 25,003人 県民人口(12.1現在) 1,967,457人 県民の 1.27%
本県代表の活躍	本県代表チームが全国のトップチームとなり、本県出身選手が「 <u>日本代表</u> 」として5名以上、「 <u>Jリーガー</u> 」として20名以上活躍する。	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成	2016年度 日本代表 0人 女子日本代表0人 Jリーガー1人
組織の確立	(公社)栃木県サッカー協会が全国及び県民より信頼の得られる組織として確立し、 <u>全国ランキングトップ10</u> 入りする。	1. 組織内の連携強化 2. 組織基盤の確立 3. 実施事業の充実	2016年度 全国ランキング 第18位
J1チームの創設・活用	<u>栃木SCがJ1に昇格</u> し、本県選手と県民に夢と活気を与える。	1. 連携・共存体制の確立 2. サポート体制の確立 3. 協同連携事業の実施	2016年度 J3所属栃木SC
サッカー施設の充実	<u>新たなスタジアムの完成と県内の人工芝サッカー場が15面に増加</u> する。	1. 対象自治体への整備 要望活動の展開	2016年度 人工芝サッカー場 ・鹿沼市 1面 ・宇都宮市 3面 ・矢板市 1面 ・大田原市 1面 ・那須塩原市 2面 ・日光市 2面 ・佐野市 1面 ・小山市 1面 ・真岡市 1面 計 13面
2022年栃木国体での大活躍	栃木国体において「 <u>総合優勝</u> 」する	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成	

2017年度のTFA活動目標

- (1) アクションプランの遂行<各連盟・委員会のプランの遂行>
- (2) サッカーファミリーの拡大
　　<プレーヤー・審判員・指導者登録数を県民の1.5%を目指す>
- (3) 各種別の本県代表チームの活躍
　　<全国大会ベスト8以上、関東大会準優勝以上を目指す>
- (4) えひめ国体でベスト4以上を目指す。
- (5) 仮称「とちぎフットボールセンターの整備構想」の具現化
- (6) J3栃木SC、JFL栃木ウーヴァFCとの連携・協力体制の
　　確立
- (7) サッカー施設の拡充<人工芝サッカー場の1面増設>
- (8) 県内各地区サッカー協会との連携・協力
- (9) 2022年栃木国体「総合優勝」に向けた組織体制の強化
- (10) 財政の健全化<新たな収入源の確保>

1. 第1種委員会：社会人連盟

2017年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内リーグチーム強化 ・ 各種大会の運営及び委員会への出席率の向上 ・ Jチーム指導者による登録チーム指導者及び選手に対する指導講習会の実施 ・ 県1部リーグから関東リーグへのチーム昇格 ・ 全国規模大会の円滑な運営に向けた取り組み ・ トーナメント大会参加チーム数を増やす取り組み ・ 登録チーム数を増やすための取り組み ・ 登録チームを継続するための取り組み ・ 公式記録作成者の育成 ・ 0-35 カテゴリー新規事業への取り組み <p><数値目標> 事業及び委員会への出席率をUP (60%へUP) 登録チーム数をUP (2018年度登録時に3チーム増やす)</p> <p><スローガン> チーム社会人(1種)の取り組み</p>
2017年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内大会の活性化 ・ 各委員会(総務・審判・技術・競技)の確立(適数人員) ・ Jチーム・JFLチームとの連携による県内チームの強化 ・ 栃木国体に向け運営レベルアップのために全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2017一次ラウンドの開催 ・ 新規チーム数を増やすための募集・広報活動 ・ 登録チーム継続のためのサポート活動 ・ 公式記録作成研修会の実施 ・ 0-35の新規大会の提案
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2017一次ラウンド ・ 県内トーナメント大会 ・ 各委員会メンバーの適正化 ・ J3・JFLとの連携・協力

2. 第2種委員会：高校連盟

2017年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校サッカーの活性化(男女) ・ 高校サッカー部員の増加(男女) ・ 本県代表校の活躍(男女) ・ 栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化 <p><数値目標> 部員数 3,000人 関東大会3位以内・全国大会ベスト8</p> <p><スローガン> 高校サッカーを盛り上げよう!</p>
2017年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国高校サッカー選手権大会栃木大会 ・ 技術・審判の質の向上 ・ 大会の整備 ・ 栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化

	<ul style="list-style-type: none"> ・本県代表の関東・全国大会入賞及び関東プリンスへの参入 ・他種別との連携
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・全国高校サッカー選手権大会栃木大会準決勝テレビ放映 ・技術・審判研修会及び講習会の開催 ・地区新人大会の廃止・代替え行事の検討・実施 ・高校連盟の試合途中経過・結果速報 ・本県代表の全国大会入賞及び関東プリンスへの参入のための協力体制づくり ・他種別との連携

3. 第3種委員会：中学連盟

2017年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・競技環境の充実 ・指導者の質の向上
	<p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ① U-15リーグに90%以上のチームの参加 ② 公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会への参加5名以上 ③ M4による指導者講習会への参加率80%以上
	<p><スローガン></p> <p>より良い育成環境を目指して</p>
2017年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・リーグ戦文化の醸成 ・指導者養成事業及び指導者研修 ・3種委員会の組織の充実 ・年間カレンダーの見直し
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15リーグ（1部リーグ・2部リーグ・3部リーグ・4部リーグ） ・公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会 ・各地区での指導者講習会

4. 第4種委員会：少年連盟

2017年度の活動目標	<p>【総務】 ①選手育成・技術力向上を視野に入れた、各種大会の企画 ②各種事業事務の円滑な実施</p> <p>【地域】 ①選手育成を視点としたトップリーグ・地域リーグの充実 ②7地区の少年連盟と県少年連盟との意思疎通のためのパイプ役としての業務を円滑に遂行する。</p> <p>【技術】 ①選手育成を視点とした技術委員会の活動時期・内容変更の検討・検証の継続 ②関東・全国レベルで通用する選手の育成 ～将来にわたって活躍できる選手の基礎づくり～</p> <p>【審判】 ①スタンダードの確立 ア 審判員の大会派遣事業 イ チーム帯同審判員の技術力強化</p>
-------------	--

	<p>【広報】①確な情報の迅速な提供</p> <p>【フットサル】①フットサル研修会の積極的開催 審判・ルール・指導・普及等</p> <p>【キッズ】①県・地区技術委員会の中でのキッズからの一貫指導体制の確立</p> <p>【施設】①サッカー競技施設の積極的渉外 ②サッカー競技施設の整備、促進の提案</p> <p>【女子】①女子選手の積極的育成</p> <p>【事業】①指導者育成事業、選手育成事業の企画運営と各委員会事業への協力</p> <p>【50周年誌準備特別委員会】 ①50周年誌作成に関わる企画・運営</p> <p><数値目標></p> <p>【地域】各種申込書提出締め切り日の厳守</p> <p>【技術】関東選抜大会ベスト4以上 4種技術委員のB級取得者を増やす</p> <p>【審判】4種委員会から2級をつくる</p> <p><スローガン></p> <p>【技術】 プレーの質を追求しよう</p> <p>【審判】 基本に忠実に</p> <p>【広報】 正確・迅速</p>
<p>2017年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<p>【総務】①登録・移籍に関する事務の厳正 ②各種文書の発送、受信の厳正 ③選手育成・技術力向上を視野に入れた、計画的な年間プログラム作成と大会企画・運営</p> <p>【地域】①トップリーグ・地区リーグ・地区予選大会の円滑な運営 ②地区トレセンと県トレセンとのパイプ役 ③各地区から出た意見の県少年連盟への吸い上げ ④各委員会事業への協力 ア 技術強化委員会(県トレセン) イ 審判委員会(帯同審判実技講習会) ウ フットサル委員会(県大会会場確保) エ 事業委員会(トレセンマッチデー、D級リフレッシュ講習会) オ キッズ委員会(地域キッズフェスティバルの補助) カ 施設委員会(大会等で必要な会場の確保)</p> <p>【技術】①県トレセン活動の充実 ・年間指導計画の継続的検討と検証 ・トレーニングの質の向上 ②地区トレセン活動への指導協力 ③指導者の質の向上 ・全国レベルのゲーム分析 ・本県の課題抽出 ・指導者講習会の設定と積極的参加 ・県技術委員のB級取得促進</p> <p>【審判】①審判研修・実技研修の充実 ア 3級審判研修会、審判トレセンの企画・運営 イ 地域委員会と協力した審判強化育成 (ルール理解の不十分な審判員の再受講等) ウ 4級審判取得講習会と実技研修会の開催</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ②フットサル審判員の増員推進 ③連盟審判委員の上級推薦 ④県審判トレセンへの参加 ⑤県派遣審判への協力 <p>【広報】 ①大会運営者・企業との円滑な情報連携 ②インターネットを活用した効果的な情報活動</p> <p>【フットサル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 少年サッカー連盟フットサル研修会の開催 ② 県フットサル委員会との連携強化 <p>【キッズ】 ①キッズ年代の選手育成事業の開催 ③ 県・地区技術委員会との連携</p> <p>【女子】 ①女子選手の育成事業の開催 ② トレセン女子活動の活性化</p> <p>【事業】 ①販売事業 ②D 級コーチリフレッシュ講習会協力 ③ トレセンマッチデー運営 ④ 地域リーグ戦への協力</p> <p>【50周年誌準備特別委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 50周年誌作成に関わる企画・運営
<p>目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名</p>	<p>【地域】 ①地域委員会の定期的開催（12回開催） ②トップリーグ・地域リーグの運営 ※新人大会の結果を受けた前期リーグの編成 ・前期リーグは、関東大会栃木県大会の予選を兼ねる。 ※前期リーグ、関東大会予選の結果を受けた後期リーグの編成 ・後期リーグは、全日本大会栃木県大会の予選を兼ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ③トレセンマッチデーへの協力 ④各種県大会の運営 ⑤地区の優秀な選手を漏れなく県に推薦する ⑥他の委員会への協力 ⑦地区の理事会の活性化 <p>【技術】 ①地区トレセン活動の活性化 ・トレセンマッチデーから県トレセンへ推薦 ② 県大会での優秀選手選出 ③ 関東トレセンマッチデー・MT Mトレセンマッチ・フットボール・フューチャー・プログラム等での他県の選手のレベル・戦術分析と本県選手のレベルアッププログラムの編纂</p> <p>【審判】 ①県大会への審判派遣 主としてベスト16以上 ②審判研修の定期的開催 ③他連盟審判員との交流 ④技術と審判のすり合わせのための研修会開催 ⑤2級審判員育成のためのエリートプログラムの作成</p> <p>【キッズ】 ①地区開催フェスティバル ②地区開催アカデミー（U-9） ④ 区主催キッズリーダー講習会</p>

5. 女子委員会：女子連盟

2017年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・トレセン制度の充実・強化 ・競技人口の拡大 ・指導者の育成 ・女性審判、ユース審判の育成 ・JFA 普及コーディネーターの活用 <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッチデー4回 4種県／地区トレ男子×U-13女子トレセン ・グラスルーツ2回 ・ワンデークリニック2回 ・審判トレセン2回 <p><スローガン></p> <p style="text-align: center;">栃木からなでしこへ「未来へ繋げる」</p>
2017年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15トレセン活動の充実・強化 学年別(U-13/14/15)のトレーニングで個のレベルアップを図り、JFA エリートプログラムやナショナルトレセンに繋げる。 ・U-18トレセン活動の充実・強化 国体成年女子選抜チームとの連携 ・国体成年女子選抜チームの強化 ・普及事業 グラスルーツやフェスティバルから女の子や女性が身近にサッカーが楽しめる環境を増やす。(例：JFA なでしこひろばの活用) ・審判トレセンの充実と底辺拡大 県リーグ等を利用して審判トレセンの充実を図る。ユース審判を含めた底辺の拡大
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・トレセン女子U-15/U-18 ・4種トレセンマッチデー ・グラスルーツ ・ガールズ・レディースフェスティバル ・審判トレセン

6. クラブユース連盟

2017年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関東リーグへの進出(各年代別強化) ・帯同審判の質の向上 <p><数値目標></p> <p style="text-align: center;">関東大会でのベスト8以上</p> <p><スローガン></p> <p style="text-align: center;">未来を担う選手たちと共に！ (高めあい・競い合い・認め合う)</p>
-------------	---

2017年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15リーグを含めU-14の強化 ・リーグ戦・ベスト8までの帯同審判の向上 ・3種委員会の組織の充実
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・各チームU-14の強化 ・帯同審判の講習会

7. シニア委員会：シニア連盟

2017年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア連盟の組織化 ・未登録チーム・選手の協会登録強化(各年代) ・関東予選会の大会運営 ・全国大会予選会の突破
	<p><数値目標> 各年代(Over40・Over50・Over60・Over70)の全国大会出場</p>
	<p><スローガン> 各年代での関東大会を突破し全国大会出場</p>
2017年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア連盟の組織の強化 ・シニアリーグの活性(各年代40、50、60) ・全国シニア(40歳以上、50歳以上)サッカー大会関東予選会の開催のための大会運営 ・シニアチームの各年代の関東予選会の突破し全国大会出場を目指す。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア委員会の各年代及び地域のメンバー選出 ・シニアサッカー選手権大会(0-40, 0-50)9月 ・シニアサッカーリーグ(0-40, 0-50)5月~2月 ・全国シニア(40歳以上、50歳以上)サッカー大会関東予選会の開催

8. 技術強化委員会

2017年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2022 栃木国体+10年を視野に入れた諸事業の検証・再実行 ・トレセン活動のさらなる充実と指導者間の連携 ・栃木 TSG(テクニカルスタディグループ) データ活用
	<p><数値目標> 関東トレセン大会各種別 A クラス入り</p>
	<p><スローガン> 全県一致</p>

<p>2017年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国体強化策の具現化 成年男子：栃木トップクラブの連携 女子：国体選抜チームの発足、栃木 SC との連携 小学年代、中学年代の女子選手の発掘・育成・強化 中学年代の女子対抗戦サポート U12 早生まれ及び U11 県トレセンの強化（国体世代） ・各種別の指導者養成及び指導者の掌握 若い指導者の育成とネットワークの形成 若手指導者の養成・強化 ・テクニカルスタディグループの活用及び指導者への還元 ・栃木フットボールカンファレンスの開催
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ U-14 トレセン海外遠征、U-12・11 県トレセン強化策 ・ 地区トレセンの強化＝県内指導者の育成（情報の共有） カテゴリーを超えた連携

9. フットサル委員会：フットサル連盟

<p>2017年度の活動目標</p>	<p>本県は「関東の後進県」の一つに挙げられていた。しかし、男女の栃木県リーグが本格的に始まり、フットサル連盟も順調に動き出したことなどから、フットサル人口が多い首都圏のチームを追従する存在にまでなっており、女子においては日本代表に2名が選出されたり、男子の2チームが関東リーグ2部に定着するなどしているが、本県全体を見ると普及にはつながっていないのが現状である。</p> <p>2016年度には登録チームが30、登録選手数が約450名と微増の傾向にあるが、さらにフットサルの普及・振興のために、フットサルイベントを企画して多くの方にフットサルに触れる機会を増やす、また、若い年代の技術の向上や試合の経験値をあげるためにクリニックの計画的実施をしたり、若手の指導者の育成など、中長期的な課題として今後の本県フットサルをより厚みのあるものとする必要がある。</p> <p>また、近年、アンダーカテゴリー等の大会増加により、フットサル委員会・連盟事業の多岐にわたるようになってきていることから、連盟を組織の充実を図る時期になってきている。</p> <p><数値目標> 男女の登録選手数500名を目標に増加させる</p> <p><スローガン> 栃木のフットサルの振興と連盟の組織化</p>
<p>2017年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①男女栃木県リーグの選手数及びチーム数増加と安定稼働 ②各年代におけるフットサル大会の安定運営 ③U-23年代の育成・強化 ④普及事業の促進 ⑤県内におけるフットサルのPR ⑥審判員の育成 ⑦新規役員の発掘、育成と組織の充実

<p>目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名</p>	<p>①栃木県フットサルリーグ ②全日本フットサル選手権栃木大会 ③全国選抜フットサル大会 ④栃木県女子フットサルリーグ ⑤全日本女子フットサル選手権大会栃木県予選 ⑥全国女子選抜フットサル大会 ⑦年代別各カテゴリーのフットサル大会 ⑧各種普及イベント</p>
----------------------------------	--

10. 審判委員会

<p>2017年度の活動目標</p>	<p>①JFA および関東協会ともに組織が改編された。それに伴い、栃木県の組織も改編し、適材適所で人材を配置する。今はスピーディでスムーズな運営ができる委員会・指導システムでないとJFAについて行けない。そのためには思い切った人の異動も問わない。</p>
	<p>②審判トレセンの中だるみから脱却を図る。実技研修（プラクティカルトレーニング）を含め研修内容の見直し、講師として3級インストラクターを活用し、指導者の資質向上も目指す。ユース審判員独自の育成、女子審判員の強化・増員も必要である。そのためには各カテゴリーでの講習会も計画する。</p> <p>③強化策としてのトップレフリーセミナーⅡ（3年目）は審判員を入れ替えながら継続する。まずはJFAで活躍できる若手審判員（1級）を育成するため、チーフは相楽氏に変更する。しかし、効果が出るまでは時間がかかるであろう。焦らないことも大切。</p> <p>④WEBがだめなら栃木県独自のネットワークを構築する。</p>
	<p><数値目標></p> <p>審判員登録数を1級 7名、2級 70名、3級 500名 4級 5000名、フットサル 700名、女子審判員 50名を目標に育成する。（中期、長期）</p>
	<p><スローガン></p> <p>THE CHALLENGE TO REFEREE FRIEND'S DREAM (審判仲間の夢への挑戦)</p>

<p>2017年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）</p>	<p>（1種）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①2級インストラクター1名、3級インストラクター1名の輩出。指導者を育成して審判員の育成に繋げる。 ②3級審判員の拡大。 他種別との連携と発掘により、1種大会の審判員を増やす。 ③3級審判員研修会の実施。 3級審判員を対象にした実技研修会を開催して技術向上を図る。 <p>（2種）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 第2種審判講習会の実施（顧問対象） ② ユース審判員の研修会を実施 <p>（3種）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①研修会の充実 ・参加者の拡大と内容の充実を図る。 ②審判員の発掘と育成 ・多種別との交流を深めながら、資質のある審判員の発掘と上級審判員を育成する。 <p>（4種）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①審判研修、実技研修の持ち方や内容の見直し。 ②審判委員会組織の見直しと各地区審判委員会の指導力向上のための研修を実施する。 ③トレセン、リーグ戦を利用した審判員へのアドバイスの継続的な実施。 ④異なるカテゴリーの審判員との積極的な交流を促す。 ⑤ユース審判員、若手審判員の発掘及び育成。 <p>（女子）</p> <p>3級昇格者2名、関東派遣1名をひきつつき実施していく。 JFA都道府県女子トレセン出席メンバーへの4級新規受講推進。審判トレセン女子の部を新規向けで開催する。</p>
--	--

	<p>(シニア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各チームに、審判資格取得者を4名以上確保する。 ② シニアの各カテゴリー(0-40 から 0-60 まで)において、最新のルールを正しく理解させ、年1回以上研修会を行う。 <p>(クラブ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 2級審判員を1名昇格させる。 ② 2級を目指す若手・中堅3級審判員を育成する。 ③ 3級インストラクターを1名増員する。 ④ 3級審判員を1名以上昇格させる。 ⑤ 県派遣審判員への参加者を1名増やす。 ⑥ 県審判トレセンの参加者を1名増やす。 ⑦ チーム帯同審判員を集めた審判研修会を実施する。 <p>(フットサル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 引き続き女性審判員の育成と若手審判員の確保を行う。 ② 上級昇格希望者がいた場合は積極的な支援を行う。 ③ U-12帯同から社会人リーグへの協力を誘導する。 <p>(指導・育成・インストラクター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 審判委員会組織の見直し、指導育成部を強化と育成に分けて活動の分担化を明確に図る。強化部門として TRSⅡ やトレセン、育成部門として3級昇格審査、フォローアップ研修、登録更新、取得講習会等を分担していく。 ② トレセン、リーグ戦、県民スポーツ大会等を利用した審判員へのアドバイスの継続的な実施。 ③ 2級、3級審判員及びS I 3の増員。 ④ ユース審判員、女子審判員、及び上級を目指す若手審判員の発掘方法の検討、具体的な育成案の作成。 <p>(競技部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① kickoffサイトの有効利用 インターネットのサイトやスマフォアプリ等を活用して審判員の情報を吸い上げ、効率の良い審判割当と情報共有を行う。 ② 各種別の連携強化 種別の垣根を越えて協力し、様々な種別に派遣することで審判員のレベルアップに貢献する。
<p>目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名</p>	<p>(1種)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1種大会(県リーグ、知事杯等)やトレーニングマッチを使用した実技指導を実施する。 ・1種主催の研修会を開催する。 <p>(2種)</p> <p>ユース審判員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レフェリースクール生を2級審判員や3級審判員に昇級させる。 ・4級取得講習会をインターハイ県予選決勝時に実施する。 ・各予選会にユース審判員を割当する。 ・全日本少年サッカー大会へユース審判員を派遣する。

(3種)

①研修会の充実

- ・ 10月－中学校県新人大会最終日
- ・ 12月－下野杯中学生サッカー大会準々決勝4試合
- ・ 3月－東日本中学生マロニエフェスティバルへの協力②審判員の発掘と育成
- ・ 多種別の審判員との交流を推進する。
(3種→2種・1種へ) (4種→3種へ)
- ・ 各地域で年1回、審判講習会を開催

(4種)

- ①ちびりんピック関東大会の審判担当者のレベルアップ。
- ②第4種からS I 3資格を取得する人材を育成する。
- ③16年度流れを継続し、トップリーグやトレセンマッチを利用しての3級審判研修を実施する。

(女子)

JFA都道府県女子審判トレセン受講者を対象に新規取得講習会として再度実施し、4級審判員を増やし底辺拡大をはかる。3級新規受験者をもう一度洗い直し説得していく。

(シニア)

- ・ 審判の取得・更新を通知で啓発する。

(クラブ)

- ① 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県予選
- ② 高円宮杯日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県大会
- ③ 下野杯争奪県下中学生サッカー選手権大会
- ④ 県派遣試合(県社会人・U-18等)
において審判員を育成・発掘する。

(フットサル)

- ① 上位のカテゴリーの試合や研修会で知り得た情報を県リーグを担当する審判を中心に共有する(随時)
U-12の審判講習会を引き続き開催する。(2回)
- ② U-12の登録審判員に昇格審査への挑戦を促す。
- ③ 各種講習会については、効率的で効果的な運営を検討し確実に実施する。

(指導・育成・インストラクター)

- ① 高校のフェスティバル、県民スポーツ大会、トレセンマッチ等を利用した実技研修を充実させ、世代や種別の垣根を越えた交流を促す。
- ② 上記の審判研修とタイアップしてインストラクターの研修会も実施する。

11. キッズ委員会

<p>2017年度の活動目標</p>	<p>【巡回指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導の拡大と受益者負担への働きかけ <p>【フェスティバル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区フェスティバルの2回以上の開催と内容の見直し（グラスルーツフェスティバル形式等） ・JFAフェスティバルの地区開催 ・チームに所属していない子ども、サッカー未経験者の子どもへの積極的なアプローチ <p>【キッズリーダー講習会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キッズリーダー講習会の地区開催 ・キッズの重要性を発信する講習会・研修会の開催 <p>【キッズ研修会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4種指導者に向けての研修会の開催 <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導の新規3箇所の拡大 ・子どもたち延べ20,000人との交流 ・フェスティバルでチームに所属していない子ども、200人との触れ合い ・キッズリーダー講習会の開催（10コース、200名） ・キッズの重要性を発信する講習会・研修会の開催（5回以上） <p><スローガン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・キッズから栃木のサッカーを変えていこう ・栃木をキッズ王国に
<p>2017年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導 250回（実質80園・小学校30校） ・「チームに所属していない子ども」と、「サッカー未経験者の子ども」への積極的なアプローチ ・フェスティバルの内容の充実（チームの対抗戦だけにならない、研修会を兼ねる、みんなで遊ぶ、グラスルーツフェスティバル形式等） ・各地区フェスティバルの年2回以上開催 ・JFAグラスルーツフェスティバルの地区開催 ・キッズリーダー講習会の地区開催 ・他種別との交流事業の拡大
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・栃木SC・栃木ウーヴァFC・ヴェルフェFC等の巡回指導 ・栃木県サッカー協会キッズプログラム巡回指導 ・地区主催キッズサッカーフェスティバル ・JFAキッズサッカーフェスティバル ・JFAグラスルーツフェスティバル ・キッズリーダー養成講習会 ・キッズ研修会